

[災害統計]

平成22年における車両系荷役運搬機械等による 死亡災害の発生状況

1. 全般的状況

平成22年のフォークリフト等の車両系荷役運搬機械等（貨物自動車を除く。）に起因する労働災害による死亡者数は33人で、前年の36人に比べ、3人（8.3%）の減少となった。

種類別、業種別の死亡者数は表1のとおりである。

種類別では、フォークリフトに起因するものが29人（87.9%）と圧倒的に多く、次いで不整地運搬車2人（6.1%）となっている。業種別では、製造業で11人（33.3%）と最も多く、陸上貨物運送事業が9人（27.3%）、建設業が2人（6.1%）で続いている（その他の事業を除く）。

種類別、事業場規模別の死亡者数は表2のとおりである。

労働者数10～29人が10件（30.3%）と最も多く、続いて10人未満が9人（27.3%）、30～49人及び50～99人の事業場で6人（18.2%）であり、50人未満の事業場では25人（75.8%）と約3/4を占めている。

種類別、年齢区別の死亡者数は表3のとおりである。

50歳以上の高齢労働者が20人（60.6%）で、全体の約6割を占めている。

2. フォークリフトによる災害状況

種類別で最も多いフォークリフトの業種別、事故の型別の死亡者数は表4のとおりである。

「はさまれ、巻き込まれ」によるものが9人（31.0%）、「墜落・転落」によるものが7

人（24.1%）、以下、「激突され」、「転倒」によるものが各5人（17.2%）となっている。

「はさまれ、巻き込まれ」では、フォークリフトに轢かれた事例が3人（10.3%）発生していて、作業経路の確認、安全通路の明示及び必要であれば誘導員を配置するなどの対策を実施していないために相変わらず発生している。また、「墜落・転落」による災害の内、5人（17.2%）がパレット上に乗って墜落・転落する等の「用途外使用」で発生している。

事業場では高所作業車や高所作業台の使用を徹底するなどのルールを決めると共に、運転者に対する再教育を厳格に行い、類似災害防止に努めて頂きたい。

さらに、フォークリフトを用いて作業を行う際は、作業経路の状況、フォークリフトの種類及び能力、荷の種類等から、作業方法（人数、輻輳作業）を十分に検討し作業計画を定め、これに基づき、必要な資格を持った者が作業を行う等、日常のチェックも怠らないことが必要である。

3. フォークリフト以外による災害状況

不整地運搬車では「はさまれ・巻き込まれ」及び「激突」により各1件発生していて、何れも後方を確認せずに作業をして発生している。

また、ショベルローダーでは「はさまれ・巻き込まれ」で1件、ストラドルキャリアーでは「激突され」で1件発生している。運行経路の安全確保、適正な作業計画に基づく安全な作業の徹底を図る必要がある。

（情報提供 厚生労働省）

表1 車両系荷役運搬機械等の種類別・業種別死亡災害発生状況(平成22年) (単位:人)

業種 種類	製 造 業	鉱 業	建 設 業	交 通 運 輸 事 業	陸 上 貨 物 運 送 業	港 湾 荷 役 業	林 業	そ の 他 の 事 業	商	計
									業	
フォークリフト	11	-	2	-	9	-	-	7	1	29
ショベルローダー	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
フォークローダー	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ストラドルキャリヤー	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
不整地運搬車	-	-	-	-	-	-	-	2	1	2
構内運搬車	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合 計	11	-	2	-	9	-	-	11	2	33

表2 車両系荷役運搬機械等の種類別・規模別死亡災害発生状況(平成22年) (単位:人)

種類	規模						計
	10人未満	10～29人	30～49人	50～99人	100～299人	300人以上	
フォークリフト	7	9	5	6	2	-	29
ショベルローダー	-	-	1	-	-	-	1
フォークローダー	-	-	-	-	-	-	-
ストラドルキャリヤー	-	1	-	-	-	-	1
不整地運搬車	2	-	-	-	-	-	2
構内運搬車	-	-	-	-	-	-	-
合 計	9	10	6	6	2	-	33

表3 車両系荷役運搬機械等の種類別・年齢別死亡災害発生状況(平成22年) (単位:人)

種類	年齢						計
	20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	
フォークリフト	1	1	7	2	7	11	29
ショベルローダー	-	-	-	-	-	1	1
フォークローダー	-	-	-	-	-	-	-
ストラドルキャリヤー	-	-	-	1	-	-	1
不整地運搬車	-	-	1	-	-	1	2
構内運搬車	-	-	-	-	-	-	-
合 計	1	1	8	3	7	13	33

表4 フォークリフトによる事故の型別・業種別死亡災害発生状況(平成22年) (単位:人)

事故の型別	製 造 業	鉱 業	建 設 業	交 通 運 輸 事 業	陸 上 貨 物 運 送 業	港 湾 荷 役 業	林 業	そ の 他 の 事 業	商	計
									業	
墜落・転落	4	-	-	-	2	-	-	1	1	7
転倒	1	-	-	-	1	-	-	3	-	5
激突	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
飛来・落下	1	-	1	-	-	-	-	-	-	2
崩壊・倒壊	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1
激突	2	-	-	-	2	-	-	1	-	5
はさまれ・巻き込まれ	2	-	1	-	4	-	-	2	-	9
破裂	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
交通事故	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感電	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合 計	11	-	2	-	9	-	-	7	1	29